

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2276400146		
法人名	有限会社 政経		
事業所名	グループホーム 袋井やすらぎの家		
所在地	437-0046 静岡県袋井市木原439番地の4		
自己評価作成日	平成22年3月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田三丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成22年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様ひとりひとりがその人らしい生活が送れる様に「自由に、ありのままの生活」を提供している。
---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は豊かな農業地帯に位置し、遠くの山並み、近くは高架の国道バイパスを望む環境に恵まれた農村の一角にあります。建物は鉄筋3階で災害時には避難所にと、地元で提案しているそうです。室内は明るい雰囲気です。「ゆったりと楽しく」「自由にありのまま」の標語の通りに入居者は、静かな生活を過ごしています。管理者(館長)は、2年前に着任し、その新しい方針は、徐々に利用者、職員らに定着してきているようです。ある職員は「平均年齢83才、要介護度4から5を中心とする入居者のお世話は、難しかったですが段々と楽しくなってきました。介護職になり、以前より気持ちも丸くなってきました」と話してくれました。
---

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「自由にありのままに、居心地のよい」を事業所の理念のもとに 常に笑い声のたえないサービスを行っている。	事業所では「利用者の家庭生活をそのまま延長して、持ち込んでもらい、その方の個性を伸ばし、ケアしていく。」と指導しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のつきあいは、主にお祭りの屋台や収穫祭への参加、定期的に幼稚園や小学生の歌のプレゼント(ボランティア)など子供達と一体になって楽しむ。	秋祭りでは、神社の屋台が所内広場でお囃子を披露し茶菓の接待もあって、寝たきりの人も大喜び。年2回の近くの幼稚園の訪問、クリスマスには館長さんのサンタ姿も人気の的です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の席で、認知症の人の理解を深める勉強会を毎回行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的に行っている。内容についても、地域の意見を聞いて次回のテーマとするも多い。	新体制になり、年6回開催しています。議題も多く、認知症の知識、情報を地元へ伝え知ってもらおうよう努めています。これには町内会長との連携があるようです。	行政や家族の出席が少ないようで、会議への積極的な参加の働きかけが、更に望まれています。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に会議を開き、現状報告をしたり、困っていることの情報交換をしたり、色々相談にのってもらっている。	市の呼びかけで介護施設関係者の情報交換会が開かれおり、積極的に出席しています。事業所での本音の悩みが出て参考になるようです。	各事業所は、共通する悩みや課題を多く抱えています。情報を得ることで、問題解決の一步になると思います。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中の施錠はしない。行動についても常に安全に配慮しながら。「身体拘束はしていません」	拘束はしていません。ただし徘徊の人がいることから、人手の足りないオムツ交換時には一時施錠することがあるようです。また精神的に極度に不安定な利用者には専門病院に移ってもらったこともあるようです。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回の勉強会の実施。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を通じて全員に理解できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	勉強会等で理解出来るようにしている。職員は利用者家族等に説明ができる対応をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護方針を利用者や家族の意見をよく聞き、担当者会議で話し合い反映させている。	家族が利用請求書を受け取りに来た際に利用者の情報を伝え、要望を聞き取っています。また、電話連絡も頻繁にしているようです。	事業所の費用は銀行振り込ですが、なかには市内に銀行支店がなく不便を訴える人もいます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は家族の面会時や電話などの対応時に何でも話せるような関係をもっています。	以前より、職員の定着率は高まっています。管理者は、介護の通常実務のローテーションにも組み込まれており多忙のようです。	グループ企業の中で、コミュニケーションの更なる充実、向上する組織運営が期待されています。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員自身がやりがいのある職場にと向上心を持って職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながら研修していくことを進めているがチャンスが少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会議等に出席し質の向上に向けた情報の交換を通じて、サービスの質を向上させるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時 家族や本人から不安や心配ごとを出来るだけ聞き出し、安心した生活が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前の段階で家族との話し合いの中で、今まで家族が困っていた内容に細かく配慮しながら、要望等を聞くように声掛けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設での生活に早く慣れてもらうように、家族の要望に耳を傾け、要望に答え応じるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人一人出来る力を発揮し自分らしい生活が出来るよう支援する。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来所時、毎日の生活状況をお話し、家族の心配事にも耳を傾けそれに応じて、安心してもらう対応をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・家族が何時来設されても、笑顔を大切に対応するようにしている。	事業所内は明るくのんびりとしています。近くにあるスーパーなどの買い物支援に感謝の音が聞かれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を尊重しながら、何かの形でコミュニケーションがとれるようゲームやジグソーパズル、読書、カラオケ等に誘って参加をうながす。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移行した人に対しても、移行先を訪問したりして、関係を続けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	83才平均の入居者、聴覚に不自由な方が多いと思う中で、身振り手振りで思いを伝えることが多い。	聴覚に支障がある人も多く、言葉がけも身振り手振りのボディランゲージで繰り返し根気よく、やり取りしています。日常の生活の中から、その人の暮らし方の希望を知ることも多く変化の記録をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の中で一番喜ばれる話は、家族の話と孫の話、写真等に話がはずむ。そんな話の中から暮らしの情報を知ることが出来た事柄を、職員周知を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の行動を記録、観察し、今必要な介護、介助が何かを考えて介護に役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者のニーズに反映されるように、利用者、家族等話し合い、重点的にやる順位を決め計画に入れている。	その人にあった生活のリズムをつくり、みんなで話し合っってパターン化して介護しています。この中では、身体の安全には、一番注意しています。	簡単な体操を望む家族の声があります。一部で実施しているようですが、全館でやってはどうでしょうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録に、その日に見たこと、聞いた事、感じた事を細かく記録し、職員間で情報を交換しながら、最善の介護計画に反映させる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の要望に対しては柔軟性をもって対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	事業所理念に基づき、自由にありのままに、居心地よい家庭的な雰囲気大切にしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が主であるが、往診をお願いする事もあり、症状に応じ、専門医の受診も受けられるよう支援している。	かかりつけ医、提携医、専門医と多様な医療機関と協力関係にあります。中には3日しかもたないと宣告された人が、入所してケアの結果、今はよくなった例もあるそうです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職がいないので、主治医に相談し支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は訪室はもちろん、担当看護師との連絡を密にして 経過の把握に努力している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	症状の変化については、その都度 医師や家族と話し合っている。	医師、家族と話し合い、終末介護や医療が必要になりますと系列のケアセンターに移り、更に進むと系列病院に入る選択になっています。また自宅で、終末を迎えたい方には家族との緊密な連携をとって介護しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変に対応できるように、全職員が救急時訓練を受けてます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	独自の訓練を年2回計画・実施しています。	消防署に届出て、独自の避難訓練をしています。寝たきりの人の搬出訓練は、停電を予想してエレベータでなく階段を使用していますが難事のようにです。町内会との連携はまともでないようですが、3階建の利点を強調し、地域の避難場所にはと提案しています。	受水槽は、庭にあるため、停電時にポンプアップ出来ないようです。この対策を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の気持ちを持ち、一人一人の誇りをキズ付けないよう 特に言葉使いには気をつけています。	運営規定には入社時のほか、常時の研修計画があって、認知症や個人情報などの教育が行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の過ごし方も一人一人が自由に決めていただくよう声掛けしている。職員が声掛けして進めることもある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の行動を尊重し、その人のペースで一日をありのままに過ごしていただけるよう接している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、重ね着、ボタンの掛け違い、襟元のボタン掛等はアドバイスしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の副食の盛付などの工夫、食後のかたづけを利用者に役割分担したりして支援している。	平日は給食中心ですが、朝と日曜日は職員の手作りを楽しんでいます。食後の片付けなどは、自立度の高い人は出来るようですが、安全性の面から一部の人に限られているようです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量は一人一人の習慣に応じた支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯の消毒(入床前又は夕食後)、一日一回うがい、自分の歯のある人は歯みがき介助や支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の習慣を活かし、トイレ時間は自由にし、混雑した場合は職員が空いているトイレに誘導することになっている。	トイレ使用が自立できる人もいますが、入居者の多くは、リハパンツ、オムツを着用しています。夜間は、2回定期的なリズムを決め、トイレ誘導と見守りを続けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便の状態を観察して、利用者の食事の工夫、水分はもちろん、十分に補給、便の排泄パターンを医師に相談、個々に応じた便秘の予防に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日中。一番暖かい時間帯を選び、入浴前にバイタルチェックを行い、一人一人の気分、体調を聴きとり、気分よく入浴を楽しんでもらえるように対応している。	入浴は、週2回で、ユニットごとに、曜日を変えて実施しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣の聴き取り等からベッドの方向、枕等フンの重さ等、室温を含め眠れるように工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人で確実に飲める利用者も、飲んだ事を確認して、一人一人の服用を支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者のできる力を活用し、食器拭き、カレンダー（日付の表示）、日めくり、掃除など役割が身に付いてそれを見守る支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	歩行訓練を兼ねた散歩。利用者の気分転換のための外出（散歩や買い物）支援を行っている。	立地場所は、田園地帯であり広い農地をめぐる散歩コースに恵まれています。また近くには大型スーパーがあって、趣味の買い物など同行して支援しています。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設、管理者がしている。希望に応じて利用者と一緒に買い物をして、支払分を利用者に渡して支払う支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙を 自らかけたり、書いたりする力のある人には、職員が側に付いて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールでの過ごし方においては、窓からの日光の入り具合でカーテンの開閉、温度の調節。壁面には利用者は主体で作った絵等を飾り付け、居心地よく過ごせる工夫をしている。	壁に掛けられた創作絵画は、下絵を入居者が塗りあげた作品で、職員のアイデアが詰まっています。最近番号で合わせるジグソーパズルが人気です。居間では静かな雰囲気にと、職員も小さな声に努めています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者がソファや居室、テーブル等で自由に使えるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人、家族に家具や飾り物の配置は任せてある。	認知度の高い人の居室は、努めてシンプルな飾りにしています。そして、ベットと窓の位置は自宅と同じに保っています。また居室と共用空間の廊下は、職員が毎日モップがけをして清潔さを保持しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒防止を重点に考え、つまづき、当りの無い環境づくりで安全に工夫している。		